

令和5（2023）年度 資源評価調査状況報告書（新規拡大種）

キジハタ日本海

対象水域	日本海（秋田～島根）	参画機関名	水産研究・教育機構 水産資源研究所 底魚資源部、秋田県水産振興センター、山形県水産研究所、新潟県水産海洋研究所、富山県農林水産総合技術センター水産研究所、石川県水産総合センター、福井県水産試験場、京都府農林水産技術センター海洋センター、兵庫県立農林水産技術総合センター但馬水産技術センター、鳥取県水産試験場、島根県水産技術センター
------	------------	-------	---

(1) 調査の概要

- ・機構は生物情報の収集、各県調べの漁獲情報の集約を実施、日本海北部における標本船調査（体制構築含む）を実施
- ・各県は漁獲統計の収集を実施

(2) データ収集状況

- 各機関により、令和2年度評価で用いた情報に加え、以下の通り情報収集を実施
- ・秋田県では2016年以降の月別漁法別漁獲量を収集済み
 - ・山形県では2020年以降の月別漁獲量を収集済み
 - ・新潟県では2020年以降の月別漁法別漁獲量（一部の漁協）を収集済み
 - ・富山県では2020年以降の月別漁法別漁獲量を収集済み
 - ・石川県では主要10港の2020年以降の月別漁法別漁獲量を収集済み
 - ・福井県では2020年以降の月別漁法別漁獲量（一部漁協を除く）を収集済み
 - ・京都府では2011年以降の月別漁法別漁獲量を収集済み
 - ・兵庫県では1971年以降（2007～2012が欠落）の月別漁獲量を収集済み
 - ・鳥取県では1992～2010年の年間漁獲量、2020～2021年の月別漁法別漁獲量を収集済み
 - ・島根県では2011年以降（以前はマハタと合算）の月別漁法別漁獲量を収集済み
 - ・機構は各府県調べの漁獲量を集約、日本海北部においては標本船調査（体制の構築を含む）を関係県とともに実施

(3) 生物学的特性

- (1) 分布・回遊：令和2年度評価報告書（https://abchan.fra.go.jp/wpt/wp-content/uploads/2020/report_2020_08.pdf、2023年11月20日閲覧）を参照
- (2) 年齢・成長：同上
- (3) 成熟・産卵：同上
- (4) 被捕食関係：同上

(4) 備考

- ・資源評価調査報告書については令和2年度に作成および公表済み
(https://abchan.fra.go.jp/wpt/wp-content/uploads/2020/report_2020_08.pdf、2023年11月20日閲覧)
- ・日本海における生物特性に関する調査研究が不可欠
- ・キジハタと他のハタ類との漁獲量の分離について精査が必要
- ・日本海南西海域の漁獲が多く、他海域も含めた地先個体群間の遺伝学的関係に関する知見が必要
- ・日本海北部においては標本船調査等によりデータを蓄積し、漁獲状況を把握することが必要